

2025-26 RIテーマ

UNITE  
FOR  
GOODよいことの  
ために  
手を取りあおう

WEEKLY

Rotary



Club of Toyohashi

RI D2760

2025-26 クラブテーマ

「話があり、和をもち、  
そこに大きな輪をまわそう」  
～心を耕し、心に種をまき、奉仕の花を  
皆の心に咲かせよう～

1950年8月10日創立

# サプライチェーンにおける港湾の働きについて

職業奉仕委員会担当

## 卓話「サプライチェーンにおける港湾の働きについて」

愛知県三河港務所 堀尾 朋宏 所長



愛知県内には、国際拠点港湾である名古屋港、重要港湾である衣浦港と三河港など計15の港湾があります。私たちの生活に必要な原材料やエネルギー、食料品のほとんどは海外から輸入しており、エネルギーの約9割、食料品の約6割を海外に依存しています。この様に私たちの生活は貿易で成り立っており、その貿易量の99%以上が港湾を通じて行われています。港湾は私たちの暮らしを支える重要なインフラであり、ものづくり産業が牽引する我が国の経済にとっても港は重要な役割を果たしています。

三河港は日本のほぼ中央に位置しており、100km圏内に名古屋市、200km圏内に阪神地域、300km圏内には首都圏があり、大都市圏を結ぶ物流の要衝となっています。昨年には国道23号が全線開通し、3月14日には三遠南信自動車道の東栄ICから鳳来峡IC間が開通する予定です。更に、東名、新東名、三遠南信と三河港を直結する浜松湖西豊橋道路が計画されており、現在、都市計画及び環境アセスメントの手続が進められています。こうした広域幹線道路ネットワークの整備により、更なる三河港の利便性向上が見込まれています。

三河港は、我が国の海上輸送網の拠点となる港湾として、昭和39年に港湾法上の重要港湾に指定されました。水域の面積は約132km<sup>2</sup>で、全国で8番目に大きな水域を持つ港となっています。三河港の令和6年の取扱貨物量は約2,200万トンで、コロナ前の水準に戻り、堅調に推移しています。貿易額は約4兆6,000億円で、全国の港で第8位の実績です。取扱貨物量の約7割が完成自動車で、輸出は台数、金額共に名古屋港に次いで全国第2位で、輸入は台数、金額共に32年連続で全国第1位を記録しており、中部地域の基幹産業を支える日本を代表する自動車流通港湾となっています。

三河港ではロケーションを生かし、様々なイベントが行われていますが、県としても港のにぎわいづくりに力を入れているところです。蒲郡市は「東港地区まちづくりビジョン」を策定し、市民や事業者を巻き込み、実証実験としてイベントを開催するなど、まちづくりの取り組みを推進しています。また、今年の9月にはアジア大会のセーリング競技が大塚地区の海洋ヨットハーバーで行われる予定です。更に、一般の方に三河港を知ってい

ただき、親しみを持っていただくイベントとして「豊橋みなとフェスティバル」が毎年海の日に神野埠頭で開催されています。

社会経済情勢や環境の変化に対応し、これからも地域の人々の暮らしを支えていくことができるよう、30年後の将来像をイメージした「三河港長期構想」を昨年5月に公表しました。この長期構想では、基本理念として強みを伸ばし、時代とともに新たな価値を創造する港、三河港を掲げ、物流、産業、人流・交流、環境、安全防災に関する5つの将来像と7つの目標を設定しています。

近年、リサイクルを発展させた「サーキュラーエコノミー」という言葉がよく聞かれます。これは、製品や資源を廃棄せずに最大限再利用し、付加価値を最大化しながら持続可能な社会を目指す経済システムのことです。そうした中、国では循環資源の物流ネットワークの拠点となり、高度なリサイクル技術を有する産業が集積する港湾を「サーキュラーエコノミーポート」として選定する動きがあることから、現在三河港のサーキュラーエコノミーポートへの移行に向け、国が管轄する三河港湾事務所と連携して、学識者や港湾事業者、行政機関、民間企業をメンバーとした「三河港サーキュラーエコノミー検討会」を立ち上げ、既存のリサイクルへの取り組みを発展させるための検討を行っています。

三河港が将来、当地域の発展を支えていけるように、しっかりと整備、管理、運営に取り組んで参ります。ぜひ地元の港を応援していただきたいと思います。

## 主旨説明・卓話者紹介

豊田 正博 職業奉仕委員長



近年、原材料の調達から製造、流通、販売、消費、廃棄に至るまでの流れをつなぐ「サプライチェーン」が注目されており、環境への配慮や健全な労働環境の保持、公正な取引、品質と安全性の確保が求められています。

本日の例会では、仕事を通じて社会に貢献するという職業奉仕の事例として、サプライチェーンを支える三河港について学んでいただきたいと思います。豊橋港を含む三河港の港湾管理者である、愛知県三河港務所長の堀尾朋宏様から、サプライチェーンの効率化や持続可能な社会形成に向けた取り組みについてのお話をいただきたいと思います。本日の卓話を通じて、物流という視点から職業奉仕について考えていただければ幸いです。



以前新聞に掲載された、私が投稿した文章を読ませていただきます。

第二次世界大戦後、日本の食は大きく変わろうとしていました。食して美味しく色合い良く、目で楽しめる料理に注目が集まりました。中でも青じそ（大葉）は全ての条件を満たす優れものであり、現在では一般的な食材となっています。青じその導入に当たり、種の入手が60数年前に始まりました。栽培方法も分からず、独自に作り始めましたが、失敗の連続でした。もう一度、今までの開発精神を振り返り気持ちを整理した時、山積みになっていた問題が一步步解決へ繋がっていきました。販売先は先人が築いてくれた市場が、力強く受け入れてくれました。生産者も増え、栽培面積の増大と共に生産量も増加。一農家の労働力だけでは限界があり、人の手に委ねました。これは今までの農家にない雇用経営による大量生産の始まりです。この大葉を世に出した諸先輩方の功績でした。

ハーブには「土に還る」「役に立つ草」の意味があります。青じそは蘇る力を持つ日本のハーブでもあります。

私にはやってみたいことがあります。それは子どもたちの食育です。美味しいものを美味しく、楽しく、健康的に食べられる食卓を培っていくことです。「カルチャー」の語源を遡ると「心を耕す」という意味があります。同じ語源を持つ農業、つまり「アグリカルチャー」は我々の本質です。畑は耕さなければ荒地地になり、作物は育ちません。人も同じように心を耕すことが、これからの地域社会のためにも、輝く子どもたちの未来につながるはずです。

本年度のテーマに沿ったようなお話になりましたが、もうしばらく私にお付き合いいただきたいと思います。

## 例会後の職場見学会

## 花王株式会社 様



## 会長報告

- ロータリー日本財団より認証ピンが届いています。  
■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー  
2回目 県政行会員

## 幹事報告

## 山本 貴浩 幹事

- 例会終了後に職場見学会が予定されています。  
参加される方は速やかにバスにご乗車ください。

## ニコニコBOX

## 黒谷 尚弘 ニコニコ委員

- 堀尾朋宏様、ようこそ豊橋RCへお越しいただきありがとうございます。本日の卓話を楽しみにしております  
井川 和英 会長 山本 貴浩 幹事
- 本日の例会を担当させていただきます。よろしくお願いいたします  
豊田 正博 職業奉仕委員長
- 三河港務所長 堀尾様本日の卓話楽しみにしています  
豊田 正博 職業奉仕委員長
- 豊田正博職業奉仕委員長、本日の例会を楽しみにしております  
野寄 誠三 伊藤 健一 村雲 晃 各会員
- 本日誕生日で、長屋孝美会員より自宅にお祝いの花が届きました。感激しております  
平松 和洋 会員
- 先週行われたニコニコ委員会の新年会で同年同月日生まれの誕生日祝をしていただきました。ありがとうございます  
青木 公貞 黒谷 尚弘 各会員
- 前回、ロータリーの友の読みどころを紹介させていただきました  
長濱 貴彦 雑誌委員長 (順不同)

## お誕生日おめでとうございます

平松 和洋 会員(1月22日生)  
青木 公貞 会員(1月24日生)  
黒谷 尚弘 会員(1月24日生)

## 歌

## ソングリーダー 佐藤 裕彦 会員

「雪」

## 本日のゲスト

愛知県三河港務所 所長 堀尾 朋宏 氏

## 出席報告

## 神谷 君和 出席委員

当日出席者	73名	計算会員数	97名中24名欠席
総会員数	110名	出席率	75.26%

## 例会予定

## 今回のプログラム

1月29日(木) ●クラブ・フォーラム「職業奉仕」(夜間)

- 2月5日(木) 休会
- 2月12日(木) インターアクト卒業生を送る会
- 2月19日(木) 卓話「多文化共生とロータリー」

写真の閲覧はこちらから▶

事務局：豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内

